

St. Luke's International University Repository

超高齢社会に求められるPeople-Centered Nursing Careとは

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-03-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 亀井, 智子, Kamei, Tomoko メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.34414/00015281

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



超高齢社会に求められる People-Centered Nursing Care とは

亀井 智子

I. はじめに

わが国は他国に類をみないスピードで高齢化が進行した。人口ピラミッドは、1930年代の富士型（65歳以上人口割合4.8%）から2000年にはつりがね型（同20%）へと変化し、2050年にはつば型（同40%）に移行すると見込まれる（国立社会保障・人口問題研究所，2013a）。わが国は少子化による人口減少を伴いながら超高齢社会がさらに進展すると予測される。また世帯構成は多世代（3世代）家族から核家族へと変化し今後は高齢者のみの世帯、あるいは高齢者単身世帯が増加する（国立社会保障・人口問題研究所，2013b）、このような特徴をもつ超高齢社会のわが国にとって、持続可能なヘルスケア支援の方策が求められている。

国際連合（以下、国連）は2015年に持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals：以下、SDGs）を採択した。これにより、すべての国連加盟国が2030年までに貧困や飢餓をなくすこと、質の高い教育を受ける機会をを広げること、ジェンダーの平等を実現すること、安全な水とトイレを世界中に広げることなど、持続可能な17項目の開発目標を挙げ、各国がこれらの目標を達成すべく努力することとなった（United Nations, 2015）。保健医療専門職は、自らの活動を通じ、すべての人々の暮らしを改善し、SDGsの1つの目標である「すべての人に健康と福祉を」に貢献することが求められている。

本大会長講演では、このSDGsを達成するための看護支援の方法として、超高齢社会に求められるPeople-Centered Care（以下、PCC）について概説し、PCCとはなにかを共に理解していく機会とした。

II. People-Centered Care (PCC) とは

人は意思をもった全人的存在であることはいうまでもないが、ひとたび医療を受ける立場になると、本人の価値観が優先されにくくなることや、本人の意思に沿った判断や決定を行えない状況に陥りやすい、この背景には、医療の受け手と提供者間には圧倒的な情報量の格差が存在するため、医療の受け手すなわち“患者”が自己

選択や医療の先導をしづらい状況があると指摘されている（菱沼，2015）。この改善のため、聖路加看護大学（当時）は2003～2007年度文部科学省21世紀COEプログラムの採択を受け、全学的に「People-Centered Care（市民主導型ケア）健康生成看護形成拠点」として研究に取り組んだ。

そのプロセスを通して、地域で暮らす子どもから高齢者までを対象としてPCCとは何であるのか模索を続け、「市民と専門職のパートナーシップ」が中心的な概念であることを見いだした（菱沼，2010）。COEプログラムの終了後は、聖路加看護大学看護実践開発研究センターに引き継ぎ、2015年度の法人一体化後は聖路加国際大学研究センターPCC実践開発研究部がPCC開発を継続して担い、現在では、世界保健機関（WHO）看護開発協力センター第7期（2016～2020年）の委嘱を受けて、WHOとも連携したPCCモデル、および評価指標の開発へと発展している。

PCCとは「市民と専門職とが対等なパートナーシップをとり、市民や社会がもつ健康課題の改善や達成に向けて取り組むための支援のプロセス」と定義している（聖路加国際大学研究センターPCC実践開発研究部，2017）。PCCの特徴は、市民が常にケアの主体となり、専門職はそれを支えるパートナーとして、市民と対等な立場に立って支援を行うことである。これを市民と専門職のパートナーシップとよんでいる（Kamei et al., 2017）。

PCCによるパートナーシップには次の8つの要素が含まれる（図1）。それらは、市民と専門職が、①互いに理解し合い、②互いに信頼し、③互いを尊敬する姿勢をもつこと。これらは、両者がパートナーシップをとるうえでの関係性の基盤となるものである。そのうえで、健康問題の改善に向けて、④市民と医療者がそれぞれの持ち味を活かし、知恵や技を出し合う行動や活動の姿勢をもつこと、そして市民と医療者が、⑤互いに役割を分かち持ち、その役割を各々が担って課題の改善に向ける行動や活動の姿勢をもつこと、⑥市民と専門職が相互に努力して課題を共に乗り越える活動の姿勢をもつこと、⑦市民と専門職が同じ目標をもって、物事の意志決定を共に行う姿勢をもつこと、⑧健康問題の改善に取り組む過程で、互いに学び合う活動の姿勢をもつことである。

市民と専門職との関係性には、市民がもつ健康問題へ

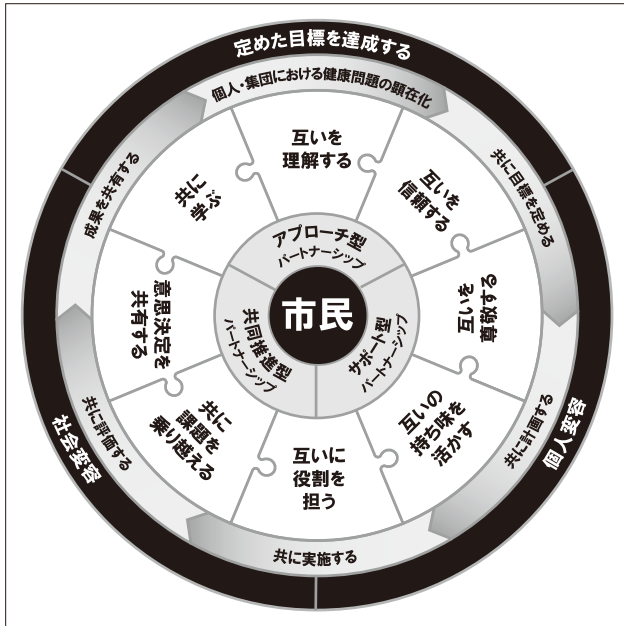


図1 聖路加国際大学 People-Centered Care モデル



出典) WHO (2017) : *What is people-centred care?* <https://www.youtube.com/watch?v=pj-AvTODk2Q> (2017年10月26日).

図2 WHO People-centred care の紹介動画

の意識によって3つのタイプが提示される。すなわち、明確な問題意識はもっていないが、潜在的な問題が示唆される市民に対しては、専門職からの積極的な働きかけを行う「アプローチ型」のパートナーシップ、健康問題をもちながら生活する市民へは「サポート型」、また、すでに自身の健康問題に対して主体的に取り組んでいる市民には、その取り組みを支援する「共同推進型」パートナーシップである。

これらのPCCのプロセスを通して得られる成果には、両者で定めた目標を達成すること、および市民のもつ情報の増加や市民が情報を見極めていく力を向上することなど、個人の変容を主としたもの、あるいは、地域社会がもつさまざまな健康問題の改善や新たなケアが広がることなど、社会の変容が挙げられる。これら聖路加国際大学がこれまで取り組んできたPCCはコミュニティをベースとした活動をもとに概念を抽出してきたため、広

く地域に暮らす人々へのPCCととらえることができる。

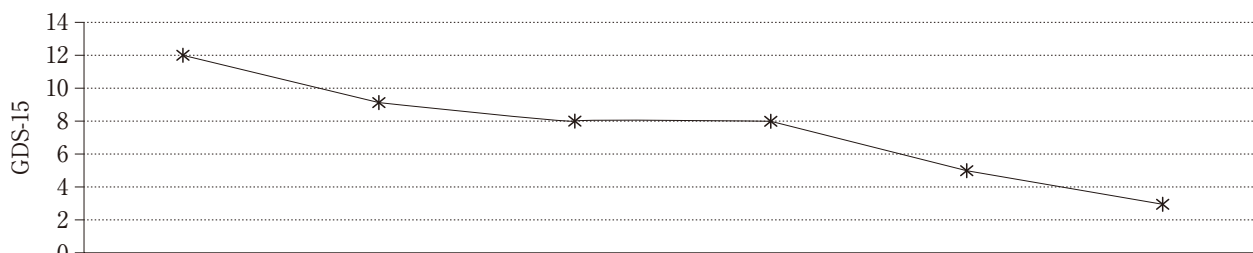
一方、WHO 西太平洋地域は患者サービスと医療安全における取り組みにPeople at the Center of Careの考え方を示している (WHO, 2014)。これは、あらゆる健康レベルを支えるヘルスケアシステムにおいて「対象者のことを一番先に思いやる」ことを含む包括的な用語として用いられ、人々の健康支援にあたっては、利用者が意思決定に参加する権利と義務をもつことがPCCの中心的概念であるとしている。そしてPCCは「市民1人ひとりにあった医療がそこにあり、それぞれの人が望む治療が提供されるためのパートナーシップである」とし、市民が尊重されること、十分に説明を受けること、十分にかかりをもつこと、支えられること、尊厳と思いやりをもって治療を受けられることであり、PCCは、すべての人が医療を受ける際の権利の姿であるとしている (WHO, 2017) (図2)。

これらのことから、PCCによるケアの提供は、専門職と市民との情報の共有や意思決定を促進するものであり、保健・医療サービスが必要となった際に、速やかにアクセスでき、そこで市民が尊重された保健医療サービスを専門職とのパートナーシップのもと受けられるようにすることであるといえる。このPCCは先に述べたSDGの「すべての人に健康と福祉を」を達成するためのケアの方法であると考えられる。

Ⅲ. 世代間交流支援と People-Centered Care

筆者たちは、本学COEプログラムによって得られた地元市民とのネットワークをもとに、2007年度から本学PCC研究事業として多世代交流型デイプログラムを創設し、都市部における高齢者と小学生を対象とした世代間交流看護支援を開発している。世代間交流とは、異世代の人々が相互に協力し合って働き助け合うこと、高齢者が習得した智恵や英知、物の考え方や解釈を若い世代に言い伝えること (Newman et al., 1997) とされ、核家族化が進んだわが国において近年注目されている。

世代間交流プログラムから、抽出したPCCの要素には、異世代間に生じるコミュニケーションを通じた世代継承性・互恵性の充足と相互理解、高齢者の心身機能の維持・改善、小学生の高齢者観の定着となじみの関係づくり、都市部地域における異世代間の相互理解、参加者が主役になること、各世代間の意見の尊重、各世代ができることを役割として分担することなどが挙げられた。このプログラムに参加した高齢者には、全体的な生活の質の向上、特にプログラムの初回参加時にうつ傾向が強い高齢者に対するうつの改善を認めている (Kamei et al., 2011)。また、認知症を伴った高齢者の例では、本人の好みを見つけ、強みを引き出し、子どもとの交流を促進するPCC支援を継続したところ、認知機能の低下は徐々に進行していったものの、参加後ごくわず



	X年			X+6ヶ月~1年		X+2年			X+年			
自立度	小刻み歩行			杖歩行			車いす					
経過	入会、中等度認知症杖歩行。			×月小刻み歩行悪化	××月表情硬い	×月杖歩行おぼつかない。	××月上旬自宅で転倒し、頭痛・背中の痛みで救急搬送。これを機に、食欲低下、運動機能・日常生活自立度低下。室内は手引き歩行、室外は車いすとなる。	×××月食欲戻る	×月自宅で再転倒	××月自宅で再々転倒し入院（骨折なし）尿失禁のためリハビリパンツ使用開始。	×××月退院後ショートステイを利用、その後毎週参加を継続。	
参加中の主な様子	初回落ち着かない表情や様子高齢者からの話しかけに返答する	2回目表情が硬い発語は単発的	3回目以降笑顔が出てくる夕方「迎えは？」とそわそわする	調理：果物を包丁で上手に切る	田舎の風景スライドと回想：風景を見て、「あ、〇〇だ」と真っ先に地名を応える	・ゲーム：子供に「お茶こぼすよ」と教える ・ゲーム：子供から「変な顔して見せて！」とバツゲームの内容を言われると、変な表情を皆に見せた ・真後ろで風船バレーをしている子どもに、ほかの人が危ないと注意すると「子どもは遊ぶのが仕事だからいいのよ」と子どもを擁護する	・編み物：介助でマフラーを完成する ・ペーパークラフト：クラフトには関心がなく、作品を見ている ・アルバムを見る：活き活きと内容を説明している ・歌：CDの曲に合わせて、スタッフと歌う ・屋外ピクニック：花の王冠を頭に載せると、満面の笑顔を見せる					

GDS-15 : Geriatric Depression Scale-15

出典) 亀井智子(2017) : 都市部地域における多世代交流型デイプログラムを通じた高齢者の社会参加支援と People-Centered Care の開発. *Geriatric Medicine*, 55 (2) : 185-190.

図3 アルツハイマー病をもつ女性(90歳代)の世代間交流プログラム参加後の経過とうつの経時的変化

かずつうつが軽減し、初回参加から2年7か月を経て、消失がみられた例を経験している(図3)。世代間交流を取り入れたPCCによる支援は、高齢者の生活の質的向上に有用であると考えている。

IV. まとめ

People-Centered Care は、医療とケアのパラダイムの転換であり、ケアの中心はだれであるのかを改めて問い直す考え方であるといえる。PCCは市民個人の健康問題の改善にとどまらず、地域や社会の変容を目指した持続可能なケアの方法であり、専門職と市民とのパートナーシップによる対等な関係性に基づくケアは、超高齢社会のわが国にとって特に有用なケアの概念である。

引用文献

- 菱沼典子(2010) : パートナーシップを具体化するために : 「垣根モデル」と「餅は餅屋モデル」. *日本看護科学学会誌*, 30 (4) : 3-5.
- 菱沼典子(2015) : 市民と看護職のパートナーシップ ; 市民中心のチーム医療に向けて. *看護の精神と科学をかたちにするための看護学への招待*, 62-71, ライフサポート社, 東京.
- Kamei T, Itoi W, Kajii F, et al.(2011) : Six month outcomes of an innovative weekly intergenerational day program with older adults and school-aged children in a Japanese urban community. *Japan Journal of Nursing Science*, 8 : 95-107.

Kamei T, Takahashi K, Omori J, et al.(2017) : Toward Advanced Nursing Practice along with People-Centered Care Partnership Model for Sustainable Universal Health Coverage and Universal Access to Health. *Revista Latino-Americana De Enfermagem*, 25 : e2839, DOI : 10.1590/1518-8345.1657.2839.

亀井智子(2017) : 都市部地域における多世代交流型デイプログラムを通じた高齢者の社会参加支援と People-Centered Care の開発. *Geriatric Medicine*, 55 (2) : 185-190.

国立社会保障・人口問題研究所(2013a) : 人口ピラミッド. http://www.ipss.go.jp/site-ad/TopPageData/PopPyramid2017_J.html (2017/10/26).

国立社会保障・人口問題研究所(2013b) : 日本の世帯数の将来推計. <http://www.ipss.go.jp/pp-ajsetai/j/HPRJ2013/t-page.asp> (2017/10/26).

Newman S, Ward CR, Smith TB, et al.(1997) : History and evolution of intergenerational programs. *Intergenerational Programs, Past, Present and Future*, 55-56, Taylor & Francis, Washington DC.

聖路加国際大学研究センター PCC 実践開発研究部(2017) : PCC ポケットガイド. <http://research.luke.ac.jp/who/aboutus.html> (2017/10/26).

United Nations(2015) : *Sustainable Development Goals*. <http://www.un.org/sustainabledevelopment/> (2017/10/26).

WHO(2014) : *People at the Centre of Care*. http://www.wpro.who.int/health_services/people_at_the_centre_of_care/definition/en/ (2017/10/26).

WHO(2017) : *What is people-centred care?* <https://www.youtube.com/watch?v=pj-AvTOdk2Q> (2017/10/26).